

# この子らを世の光に

## 地域で生きる人になる

### 多様性の中で育つ



校長 福島美菜子

今年度から学校の基本構想を「グラランドデザイン」として、目指す方向性や取組

について地域の皆様にもお示しし、開かれた学校づくりを推進しています。出雲養護学校が地域の方々と連携しながら進めていきたいテーマを一言でお伝えすると、「共生社会の実現」です。

グラランドデザインをふまえ、今年度の学校経営の重点テーマは「カラフル～個性を生かして地域とつながろう～」としました。本校は圏域に1校の特別支援学校であり、4つの分教室、3つの障がい部門があります。今年度は288名の、豊かな個性をもった子どもたちが在籍しています。また、学校のある出雲市は、世界各国の方々とのつながりを大切にしている先進的な地域であり、本校にも外国にルーツのある児童生徒が在籍しています。本校は「多様性という個性」のある学校だと思います。



令和4年7月20日  
発行  
島根県立  
出雲養護学校

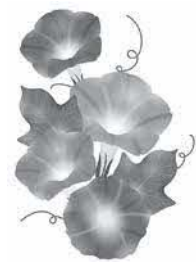
学校では、目指す児童生徒像を「地域で生きる人になる」としました。障がいのある子どもたちに生きる力を育むためには、学んだこと(知識)を使って、考える(思考・判断)学習をしていくことが大切です。その学習を進めるために

は、「本物」との出会いが重要になります。出会ったことのない本物と出会い、心を揺さぶられて初めて、何でだろう、もつと知りたいという「問い」が生まれ、学習意欲が沸いてきます。意欲をもって学んだことは自分の力として身につけていきます。その学習に欠かせない「本物」は「地域」の中にあると考えています。

社会学者の上野千鶴子さんは「問いは自らが見いだすもの。異質なものととの触れ合いや体験の中から自然と沸き立つ違和感とその人の問いにつながるのではないか。」「多様性がなぜ必要なのかと言えば、新しい価値は異なるものの摩擦から生まれるからです。」と語っておられます。多様性は「問い」を生み出す原動力になると気付かされます。

今年度、外国籍の保護者さんがPTA役員を引き受けてくださいました。その保護者さんが「私が役員になったということは、この学校は差別をしていないということ。難しいことはわからないけれど、自分にできることは何でもやります。」と語ってくださいました。言語や文化の異なる地で、学校の取組に共感し協力してくださる気持ちに触れ、胸がいつぱいになりました。

本校の個性である多様性を生かし、地域を知り地域から学ぶ学校を目指します。



## いずよう魅力化協議会 (学校運営協議会)について

教頭 木村芳宣

今年度から、



島根県のすべての特別支援学校において、学校

運営協議会が導入されました。学校運営協議会は、学校が保護者や地域住民と目標やビジョンを共有し、地域と一体となって子どもたちを育む「地域とともにある学校づくり」を推進するための仕組みです。最近、よく耳にする「コミュニティ・スクール」というのは、学校運営協議会を設置した学校のことを指しています。出雲養護学校では、学校運営協議会を「いずよう魅力化協議会」という名称とし、年間3回の会議を開催するほか、随時、委員の方から学校運営などに関する意見をいただいています。

今年度、いずよう魅力化協議会委員は、次の13名の方々です。出雲養護学校は、大田市や雲南市にも分教室があるため、各地区から委員の方にご参加いただいています。



いずよう魅力化協議会委員 (五十首順)

- 赤木 亮一様 神西コミュニティセンター長 (出雲市)
- 稲根 克也様 出雲観光協会事務局長 (出雲市)
- 宇谷 留美様 前PTA会長 (大田市)
- 片岡 久様 さざなみ学園長 (出雲市)
- 神田 陽二様 三刀屋文化体育館アスパル館長 (雲南市)
- 須谷 紀子様 出雲サンサン保育園長 (出雲市)
- 陶山 明子様 PTA会長 (出雲市)
- 武部 豪様 馬路地区観光振興協議会事務局 (大田市)
- 西村 健一様 島根県立大学准教授 (松江市)
- 堀西 雅亮様 島根県外人サポーター (出雲市)
- 松下 怜司様 麵屋松代表 (大田市)
- 森山 和子様 Office Soup代表 (出雲市)
- 山根 浩様 神戸川太鼓やまびこ代表 (出雲市)



さて、出雲養護学校のグランドデザインでは、目指す児童生徒像（グランドデザイン・ポリシー）として「地域で生きる人になる」を掲げています。

いずよう魅力化協議会の大切な役割の一つは、「地域で生きる人」を育成するために、学校がどのようにして効果的に地域と連携・協働していくかを検討することです。

これには、学校から見た視点だけでなく、地域の方の視点から教育活動を考え、学校と地域の双方にメリットがある、WIN-WINの関係性が重要と考えています。

これから、地域で生きる人を育成し、共生社会の実現を図るために、いずよう魅力化協議会を基盤として、取組を推進していきたいと考えています。

今年度の

PTA活動について

PTA会長 陶山 明子  
今年度PTA会長を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。よろしくお願いします。

さて、人権教育「PTA活動」育成事業も二年目となりました。昨年度は「コロナ禍でもできることをできるように」と、防災や人とのつながりづくりに関する活動に取り組みました。

今年度もテーマは引き続き「安心・安全な学校づくり」です。昨年度好評だったあいさつ運動やPTA担当保護者による避難訓練見学は、継続していきます。研修会については、島根大学の宮崎先生をお招きして、「思春期の子どもの理解」をテーマにご講演いただく予定です。また、今年度の新たな企画として、「親子で取り組もう！～SDGsビンゴ～」を計画しています。親子で楽しみながら活動し、人も物も大切にしていけることに意識を向けていただけたらと思います。

人と人がつながりを感じられる活動、一人一人が大切にされていると感じられる活動を目指して取り組んでいきたいと思っています。皆様、お忙しい中ではありますが、今後ともご理解とご協力をいただきますよう、お願いします。

小学部 地域で生きる・地域とつながる活動を！

主事 大野 浩司

今年度、小学部には13名の児童が入学し、72名の仲間と学習活動に取り組んでいます。個性あふれる子どもたちと一緒に、好きなことや得意なことが増えたり広がったりするような取組を行っていきたいと思います。

今年度も地域とつながる取組として、交流及び共同学習や校内・校外の人材を活用した授業づくりを大切にしたいと思っています。交流及び共同学習については、神西小学校との学校間交流を計画的に行ったり、居住地の学校との交流を予定したりしています。同じ地域で過ごす同世代の友だちと共に学習する中で、かわり方を学んだり、相手のことを理解したりする機会を大切にしたいと思います。校内・校外の人材を活用した授業づくりとしては、高学年が昨年度から実施しているクラブ活動に太鼓や歌、ダンスや書道の名人などを招待し、本物に触れる機会を計画していく予定です。また、クリスマスや節分、掃除の学習などで高等部の生徒に授業づくりに協力してもらう場面も計画しています。高等部の生徒にとっても、小学部の児童にとっても、お互いかわり合うことでメリットがある活動にしていきたいと思っています。

小学部には、幅広い圏域から通学してくる児童も多く、また外国にルーツのある児童も在籍しています。小学部での六年間は、将来それぞれの「地域で生きる人になる」ための土台作りと捉え、一つ一つの学びを大切にしていきたいと思っています。



中学部

魅力ある授業づくりを

主事 曾田慎一郎

今年度は、13名の新入生を迎え、39名でスタートしました。今年度中学部では、生徒・教員の個性を活かしたり、「地域の力」を取り入れたりして、魅力ある授業づくりを推進していきたいと考えています。

様々な形で地域のご協力を得ながら「生徒が考えたり、選択決定したりする場面」を大切にしつつ、生徒の心が動くような魅力ある授業を展開していきたいと思っています。



早速、学年での授業や音楽グループの授業、校外学習関連などで実施したり、計画したりしています。例えば昨年度に引き続き、神戸川太鼓の方と一緒に太鼓をたたいたり、河南営農センターの方に農作物の育て方を教えてもらったりしています。今年度は新たにダンス講師の方を招いて楽しくダンスをしたり、アジサイ研究会の方に島根オリジナルアジサイの育て方を教えてもらったりする予定です。また、校外歩行で、長浜海岸や校舎周辺のゴミ拾いに出かけた学年もあります。その他、魅力ある授業を計画実施して、生徒たちの真剣な表情、楽しそうで主体的な言動、感想などの様子を、お知らせしたいと思います。

保護者の皆様や、地域の方々のご協力を得ながら、生徒、教員が一丸となって楽しく元気に頑張り、成長していきたいと思っています。



肢体不自由部門

人との触れ合いの中で興味ある活動を見つけていこう

部門長 加藤美香

今年度の肢体グループは、小学部新入生1名と、中学部転入生1名、訪問生1名を含む15名でスタートしました。各クラスとも感染対策を行った上で、校外学習や肢体グループ単独の修学旅行を計画しています。

肢体グループの子どもたちにとって、校外に出かけ知らない場所での活動や知らない人との触れ合いは、非日常的な活動でとても貴重な体験学習となります。特に、教員以外の人とかかわることは緊張感が伴いますが、ドキドキ感や満足感を得ることができるとなると、また、地域の方にとっても、地域にどんな子どもたちが生活しているのか、肢体不自由のある子どもたちがどんなことに興味をもっているのかを知る機会となり施設の運営や合理的配慮について考えていただける機会になるのではないのでしょうか。

こうしたことを願って、今年度は、琴の演奏家や忍者体験の講師の方を校外学習先に招いたり、図書館の方に読み聞かせをしていただいたりする活動を取り入れていきます。地域の方との触れ合いを通して子どもたちがどんなことを感じ、学んでいくのか楽しみにしています。



高等部

地域で生きる人になろう

主事 竹崎志保

高等部には、年間を通して見学や交流、営業日などにたくさんの方々が来て下さっています。また、現場実習をはじめ進路見学や校外学習など、生徒たちが地域に出かけて、地域の方から学ぶ機会も多くあります。地域の方とのつながりの中で生徒たちがつける力の大きさを日々感じることが出来ます。

今年度は、さらに地域との連携を深め、生徒たちが「地域に貢献している」という実感ももてるような取組をすすめていきたいと考えています。作業学習では「お客様に喜んでもらえるために今年はどうするか。」と、班ごとに話し合いながら製品作りやサービスの提供をすすめています。また、廃園になっていくぶどう園を復活させる事業の中で草取りなどの協力に出かけたり、ブラジルから移住して来られた方の想いを知り、自分たちでできることを考えたりする取組をはじめている生徒たちもいます。

「地域の中で生きる」一員として、自分たちの地域をよりよくしていこうとする気持ちをもてるよう、地域の方の力もお借りしながら魅力ある授業作りをすすめていきたいと思っています。



寄宿舍

寄宿舍という小さな地域で

主任 吉川也須子

「先生、校庭行ってきます！」水筒もった？先生も一緒に行くからちよっと待って。」

午後4時になると、寄宿舍ではこんな会話が交わされます。校庭や体育館で体を動かす生徒、寄宿舍の中でゆったり過ごす生徒。

それぞれの過ごし方で夜を迎えます。学校から帰ってきて翌朝登校するまで過ごす寄宿舍での時間。静かに過ごしたい人もいれば、賑やかに過ごしたい人もいます。同じ人でも、そのときの気持ちによってどんなふうにも過ごしたいかは変わります。興味があることも人それぞれです。

寄宿舍という生活の場で、少しずつみんなが譲り合って生活しています。時にはお互いに「譲れない」ということもあり、そのつど話し合い、折りあいをつけながら生活しています。

行事は希望者が自分のやりたい活動を選んで参加しています。一つの行事には、当日の活動以外にも計画や準備、片付けなどいろいろな活動があります。自分の興味や得意なこと(個性)を生かして、活動にかかわっています。

個性豊かな生徒たちがかかわり合う寄宿舍は、生徒が在校中に生活する「小さな地域」です。ここでの経験は、卒業してから生活する地域とかかわっていく力につながっていきます。

それぞれの生徒の個性を生かしながら、仲間や地域とつながる力を育んでいきたいと思っています。

大田分教室

みんなちがって  
みんないい

主任 山本美幸



大田分教室は、大田二中の敷地内に設置されており、毎日の掃除を一緒に行ったり、体育祭や文化祭の行事に参加したりするなど、日常的に交流を行っています。5月には、大田二中の生徒が企画する昼休みの交流活動プロジェクトBを実施しました。今回、二中学生が考えた交流活動は、長縄を両端で持ち、チームの3人が協力して大玉を転がすというリレーゲーム。「どうやったらうまく転がるかなあ。」「あ、真ん中に縄を当てればいいよ。」「わあああ、転がり過ぎた。」「など、なかなかコツがいるゲームに、わいわいと和やかムードが漂いました。終了後、二中学生は参加希望者が多く、抽選になったという嬉しいエピソードも聞きました。今後も、お互いが楽しみにできるような交流を重ねていきたいと思えます。

このように、年間を通して学校間交流を行っている、大田一中・久手小・大田分教室の合い言葉は、「みんなちがってみんないい」です。この理念を大切にしながら、小学部5名、中学部9名、合計14名のカラフルな個性を生かし、今年度も地域とつながります。大田分教室にも地域の皆さんにも、素敵な虹がかけられますように。

瀬摩分教室

交流の範囲を  
さらに広げて

主任 鎌田さとみ



本年度は4月に2名の仲間を迎えて8名でスタートしました。瀬摩分教室は瀬摩高校の中にあり、瀬摩高校生とは様々な行事を通して交流をしています。今年度はさらにその範囲を拡大して仁摩地区でのかかわりに取り組んでいます。1年生は「地域を探索」をテーマに、瀬摩高校・仁摩図書館・サンドミュージアム・神楽岡神社などに出かけました。いろいろな発見を写真に収め、オリジナルの仁摩地区の地図を作りました。2年生は「地域へ発信」をテーマに自分の得意なことを作品にして仁摩図書館・郵便局などに展示するためのお願いに出かけました。展示スペースを紹介していただいたり、期日の交渉をしたりした結果、2学期以降に展示することになりました。3年生は、「地域に貢献」をテーマに町内を探索し、仁摩海水浴場のゴミ拾いをするのにしました。仁摩支所に相談したところ、ゴミ袋をいただき、たくさんゴミを拾いました。海水浴シーズンを前に、きれいな浜が保たれるようお願いを込めて拾いました。そして、日頃から地域の方が海岸を美しく保っておられることを知ることができました。今後とも地域の方々や瀬摩高校とのつながりを大切にしながら、仁摩地区の一員としていろいろな活動に取り組みしていきたいと思えます。

雲南分教室

感謝の思いを伝えたい

主任 福田由利恵



雲南分教室には、体育館も校庭もありません。体育のときには、いつも斐伊体育館とグラウンドを使わせていただいています。そこで毎年、感謝の思いを込めて、グラウンドの除草作業をしています。今年度の活動当日は、あいにくの天気。急遽、体育館内の掃除も追加し、2グループに分かれて取り組みました。生徒たちは、手を止めることなく草を抜いたり、窓拭きなどの掃除をしたりして、グラウンドや体育館をきれいにすることができました。コロナ禍前は、生徒たちが作業学習で栽培している野菜やコトコツと製作している手芸品や焼き菓子などを地域のお祭りなどで販売していました。しかし、ここ数年、お祭りなどが中止となり、販売会をすることが難しくなっていました。昨年度、隣接する雲南市社会福祉協議会様に相談したところ、快く販売に協力してくださいました。こうしたつながりもあり、今年度、農業班は、雲南市社会福祉協議会の敷地の除草作業を行っています。雲南分教室は、開設以来、地域の方に支えられながら、活き活きと学習に取り組むことができています。学習を通して、少しでも皆さんに、感謝の思いを伝えていきたいと考えています。

みらい分教室

生き物・植物大好き  
みらいっ子

主任 竹本めぐみ

みらい分教室の仲間はとても生き物が大好きで、各教室でトカゲやメダカなどを飼っています。登校後や昼休みにお互いの生き物を見せ合ったり、エサとなるクモやバッタを探したりと、トカゲを捕まえることが得意な子を中心に輪が広がっています。また、どの学級も野菜や花の栽培にも力を入れています。学校周辺は自然豊かで、日々いろいろな発見があります。4月末にはサヒメルに遠足に行き、三瓶山の麓を歩きました。スタッフの方に葉の中央部に直接咲いている花や、触ると歯磨き粉の匂いする葉など、不思議な植物や昆虫について説明を受けながら散策しました。そしてサヒメル館内や北の原の草原でみらいっ子たちはそれぞれの「お気に入り」を見つけていました。日頃は生活科や総合的な学習の時間で、神西地域をよく歩き、どんな建物や畑、店があるのか探索しています。今後は外園海岸へ行きSDGsの学習に取り組み予定です。また昨年度もお世話になりました神西コミュニティセンターや漁協の方のご協力を得て、夏には神西湖でのシジミ漁体験、冬には神西地域の方にお越しいただき昔の遊び体験をする予定です。さらに秋には修学旅行で出雲市の特産や島根県内の様子も調べる予定です。このように今年度も校内外の人・モノ・コトとかわりながら、学習を進めていきたいと考えてます。

編集後記

今号では、今年度の学校経営の重点テーマである「カラフル～個性を生かして地域とつながろう～」をもとに、校内のそれぞれの取組についてご紹介しました。これから一年間を通して、出雲養護学校の「地域で生きる子どもたちの姿」を発信していきたいと思えます。